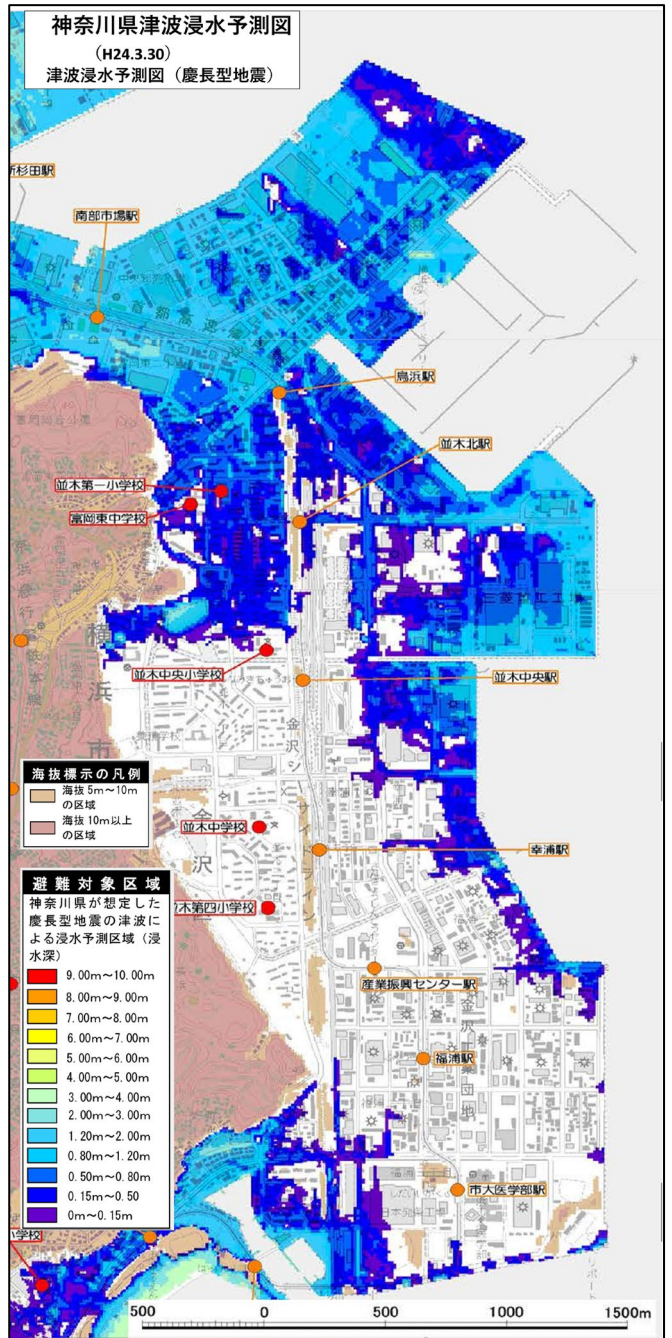


●金沢区 洪水及び津波浸水ハザードマップ

洪水ハザードマップ



津波浸水ハザードマップ



近年、夏の異常な猛暑や局地的大雨が問題になっており、特異現象というよりは常態化している。

IPCC(気候変動に関する政府間パネル) 評価報告書によれば、大気と海洋の温暖化、世界の水循環の変化、雪氷の減少、世界平均海面水位の上昇等の変化が検出され、地球規模で降水量が増加、ほとんどの陸域で大雨の頻度が増加している。日本においても、時間降水量50mm以上の「非常に激しい雨」は、ここ30年で約1.3倍に増加している。

台風においても、日本近海の海水温度上昇に伴い、勢力が強い状態で日本に上陸する傾向となっており、この状況が常態化する可能性がある。

令和元年9月の台風15号は、金沢臨海部産業団地創設以来の災害をもたらした。創設約40年間に経過し、インフラ、工場等の建物も老朽化が進行する現在、自然の脅威に対してハザードマップを活用するとともに対策を見直す時期にきている。